

## マナーのツボ

### 意外な人から中元受け取ったら



社会人一年目、親元を離れホームシックだった私は、実家の母に電話をしてはとて面倒見の良い先輩の話をしました。娘を案じる過保護な両親は、先輩宅にお中元を贈ったのです。私も親となり、気持ちは理解できませんが、突然贈り物が届いた先輩はさぞや驚いたはず。その後両親のもとにはお礼状が届き、私が元気で働く近況や「今後のお気遣いは不要です。これからもお願い申し上げます」と贈答を辞退する気持ちが記されていました。母は迅速で丁寧な対応にいたく感心し、お中元をきっかけにしたやり取りを喜んでいました。

お中元は、日ごろの感謝の気持ちを品物と共に贈るもの。宅配する場合には挨拶

### すぐ礼状、お返しは時期ずらす

挨拶を同封するのがマナーです。挨拶状には、贈る理由を明確に書きます。

気を付けるべきは、贈る側と受け取る側の気持ちが必ずしも一致しない点です。気持ちを押し付けたり、連絡やお返しを期待したりすべきではありません。

受け取る側は、そもそも贈り物が届くことや品物が自分の気持ちに合わないこともあるでしょう。それでもすぐに受け取ったことを連絡し、お礼を述べ、気遣いに感謝すべきです。決して贈る人の気持ちを否定してはいけません。ましてや送り返すなんて言語道断。

本来お中元はお世話になった人への贈答でお返しは不要ですが、お返ししたい場合は、時期をずらし「暑中お見舞い」として贈ります。金額も頂いた品物の半額から同額程度にとどめるのがマナーです。

(ビジネスマナー講師

美月 あきこ)